

今週の相場はどうなる？

今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○9月26日～

日銀金融政策決定会合の後の黒田総裁の講演中に146円に迫るところまで円安が進んだことで、24年ぶりの介入を行いました。クロス円も含めて急落する動きとなりました。欧州もマイナス金利を脱却し、政策的には円安が止まる要素は見当たりません。98年の円安阻止介入でも何度か介入が不発に終わっているのですぐに円高転換とはならなくても円安の流れに変化が出てくるかは意識しておきたいです。また、NYダウが年初来安値更新となりました。さらに、英国のトラス首相が発表した減税、国債増発の政策に対して、財政不安からポンドが大きく売られました。ポンドが今後弱くなっていくかも注視しておかないといけません。

<ドル/円>

ドルは145.9円から介入で一時140.4円あたりまで急落し、戻してきました。142-146円あたりのレンジをしばらく動く可能性も。高値追いは危険。

<気になるクロス円>

クロス円も大きく下げました。株に連動する動きのため中長期的には下落トレンドに転換するリスクが浮上。今週は、週明けに底打ちすれば反転上昇を期待したいです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇/円というような通貨ペアのことです。

<ファンダメンタル？>

日本では日銀金融政策決定会合議事要旨、8月鉱工業生産などがあります。米国ではFRBパウエルFRB議長発言、8月耐久財受注、7月ケース・シラー米住宅価格指数、9月消費者信頼感指数、9月リッチモンド連銀製造業指数、8月新築住宅販売件数、4-6月期GDP（確定値）、前週分新規失業保険申請件数、8月個人消費支出、9月シカゴ購買部協会景気指数、9月ミシガン大学消費者信頼感指数の発表などがあります。欧州ではユーロ圏とドイツで9月消費者物価指数、ユーロ圏でラガルドECB総裁発言、ドイツで9月IFO企業景況感指数などがあります。ほかには英国で4-6月期GDP（改定値）、カナダで7月GDPなどがあります。